

(別添4)

【三朝町】1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

超スマート社会(Society5.0)の到来によりこれまでにない新たな価値の創造と展開が可能な時代を迎えつつある一方で、本町においては少子高齢化が増々加速し、人口減少による児童生徒の減が見込まれる。こうした急速に変化する社会の中において子どもたちは、オンラインを通じ多様な他者と関わり合い、協働することが求められる。

そういった多様な選択による活動が加速する中において、子どもたちは「学び取る授業」へ学びの質的転換が強く求められることに加え、自主的に考えることで正しい情報を取捨選択する能力が求められるため、GIGAスクール構想により実現した1人1台端末環境を活かし、子どもたちにとって「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、子どもたち自らが自律的な学習者となり、自由な発想でICTを活用し、見出した課題を主体的に解決する探究的な学びを推進する。また、その恩恵を享受できるようにするために、教職員の更なるICT活用指導力向上、ネットワーク環境の整備、教育データの活用、リテラシーの強化、校務の改善や効率化による十分な指導時間の確保等、ICT教育環境をソフト、ハードの両面で整備していく。

2. GIGA第1期の総括

県が主体となり全県共通の学習用ツールが導入され、小学校1年生から中学校3年生まで引き継げるアカウントを活用することにより、教職員、児童生徒とも同じ環境で学びを継続できる環境が整備された。また、オンライン、クラウドを活用した多様な学びに1人1台端末を活用する姿が見られた。

特に学校においては生徒会活動や長期休暇の課題、保護者文書のオンライン化、クラウドデータの活用によるペーパーレス化が進み、子どもたちの活用はもちろん教職員の業務の改善が図られた。教職員による活用から、児童生徒が自らの課題解決のために主体的・自律的に端末を活用する学校が増えてきた一方、課題として教職員間、ICT活用指導力に差がみられることから、引き続き情報活用能力におけるメリットを教職員が理解し、それを児童生徒が自ら学ぶための「学び方」に結び付けることができるよう教職員の研修の実施や、取組の共有化が必要である。また併せて、情報のデータ化・オンライン化に伴うリスクやモラルに欠けるトラブルについても課題意識を持つことが課題である。

校内通信環境に現状問題はないが、今後見据える情報化においては十分とは言えない状況であり、ネットワークアセスメントの実施による通信環境の現状把握や阻害要因の検証改善を今後進めるとともに、全ての環境で安定した高速大容量通信の実現に向けた確実な整備及び運用を図る必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

これからの社会に対応する資質・能力の基盤となる情報活用能力を育成するとともに、「自ら学び取る授業」の実現に向けた探究的な学びに取り組み、子どもたちが学びのツールとしてさらにクラウド活用することにより、子どもたち一人ひとりが目標に向かって、情報を取捨選択しながら学習したり、共有機能やオンライン会議等を用いて、他者の考えを参照したりしながら自ら学んでいくような授業(個別最適な学び、協働的な学び)の推進を図る。併せて、タイピングを始めとしたICT活用の基礎能力を小学校低学年から身に付け、スムーズな活用を図ることも重要と考える。

また、ICTを最大限活用し、オンラインデータ集約による指導の充実・効率化を図り、不登校の未然防止や病気療養等により特別な支援が必要な子どもたち、発達の支援が必要な子どもたち等に対しての学習機会の確保、多様な学びの機会や学校生活における心身の相談窓口として活用するなど発展的な活用も模索する。

さらに、ICT利活用の推進に向けて、管理職のマネジメント力の向上はもちろん若手教職員が率先して先進的な活用を学ぶことができるよう教育委員会と連携し、校内の推進体制の強化を図る。

加えて、子どもたち主体の探究的な学びが推進できる教職員の養成に向けて、ICT支援員等を軸とした活用能力の向上研修を実施し、ICT活用へのステップアップ及び新たなスキルを習得できるよう校内ICT活動体制を強化する。

今後も1人1台端末環境において「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、次世代ネットワークによる安定した高速大容量通信環境の整備及び、1人1台端末の整備・更新を確実に実施する。